



千代田まちづくり サポート

通信

2002年1月発行

No.6

編集・発行 (財)千代田区街づくり推進公社 企画情報課

東京都千代田区九段南1-8-17 千代田会館2階

TEL 03-3262-0211 FAX 03-3262-0213

公社ホームページ <http://www2.odn.ne.jp/citystation/>

E-mail: makecity@pop17.odn.ne.jp

第3回千代田まちづくりサポート最終発表会開催

初参加組も地元住民とコミュニケーション
大きな成果あげる3団体「卒業」



「卒業証」を受ける外堀遊縁研究会のメンバー

新たなスタートを切り、これまでの活動を生かして国際的なPR活動につなげるほどステップアップすることを予定していると発表した。

「第3回千代田区まちづくりサポート」助成団体の発表会が2001年10月6日、神田さくら館で行われた。この事業がスタートして3年連続助成を受けてきた「江都天下祭研究会神田倶楽部」など3団体が、初めて「卒業発表」したのをはじめ、合計9グループがこの1年の成果と課題を発表した。

それぞれの団体は、この1年の総まとめであり、次年度につなげるステップにもしたいとあって、「足」で調べた資料や写真などを展示しながら熱く報告した。中でも「卒業発表」団体のトップバッターとなった神田倶楽部は、昨年春にそれまでの成果をまとめた本『明神さまの氏子とお神輿』を出版するまでのいきさつと完売した要因も明るく語り、今後も祭文化をまちづくりに生かしていきたいと発表した。歴史ある江戸城の地域特性を生かして3年間活動してきた「外堀遊縁研究会」は、メンバーの出資でNPO法人として

JRの飯田橋貨物関連用地を中心とした地域開発に取り組んできた「飯田橋地域の開発を考える会」も地元住民や行政、開発業者が連携した再開発の会を作り上げるなど上々の成果を上げて卒業した。

初参加の団体も地元住民と共に活動している様子を生き生きと話し、審査員をうならせていた。

目次	(頁)
【発表グループ】	(2~6)
◎江都天下祭研究会神田倶楽部	(2)
◎外堀遊縁研究会	(2)
◎番町まちづくり文学館	(3)
◎飯田橋地域の開発を考える会	(3)
◎花咲かじいさん	(4)
◎神田薔麦の会	(4)
◎神田SOBART実行委員会	(5)
◎みんなの居場所提案会	(5)
◎QQT	(6)
【審査員講評】	(6~7)
【リナックスカフェオープン】	(8)
【賛助会員一覧】	(8)

千代田まちづくりサポートとは

千代田区街づくり推進公社が行っている市民レベルの「自主的なまちづくり活動」への助成制度です。「まちづくり活動」とは、地域に根ざした具体的なまちづくりや提案、調査研究、情報提供、ワークショップ、シンポジウムなど「現在、将来にわたって住みよい魅力的な都市環境づくりに貢献する活動」です。

スタートしたのは1998年度。毎年10月に公開審査が行われ、選ばれた助成団体には11月から翌年10月まで活動し、中間発表、最終発表を公開で行い会計報告を提出します。審査は毎年1回行われ、

継続して選ばれることもありますが、原則として最高3回までです。助成額は年間総額300万円。1件当たり5万円から50万円まで。助成の内容は①活動に必要な実費②講師や専門家への謝礼など。2001年度までに23団体に助成しました。この助成金は賛助会員(法人・個人)の浄財によるもので、税金をあてていません。

応募資格は、千代田区のまちづくりに結びつくテーマで、3人以上で活動するグループ。千代田区在住在勤在学、プロ・アマ、国籍など一切問わない。ただし政治、宗教、営利を目的とするものを除きます。詳細は公社企画情報課へ。ホームページもどうぞ。

『明神さまの氏子とお神輿』の出版、 見学会 勉強会の開催

江都天下祭研究会 神田倶楽部 (参加3年、助成額50万円)

このサポート活動も3年目で卒業せざるをえないさみしさがある。

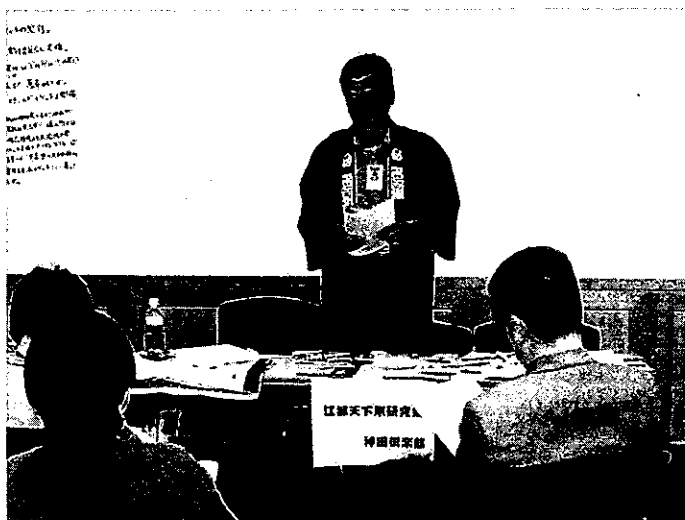
念願の本『明神さまの氏子とお神輿』が2001年4月1日に出版され、5月半ば過ぎ、神田祭が終わるころに、お蔭様でほぼ完売となる。出版物の発行で仲間の輪も拡大した。今後も勉強会、見学会は継続していく。

2003年の神田祭に向けて、新たな出版の企画を始めている。各町会の手拭いや半てんを集めたり、古写真の発掘、年配者からの聞き取り取材を実施して、氏子町会の歴史をまとめていきたい。

会計については、12月を決算とするので、出版物による収入は報告書にはまだ含まれていない。我々が資金を出し合

ったが、黒字になったことは確かだ。

来年の出版に関してのご意見、ご要望



採算の工夫をしていくべきだと思うが。

Q: 使用する写真はたとえば、写真学校の生徒さんにとか、地域の人を巻き込んでいってほしい。そうすることが、このような活動の良さではないか。

A: 巻き込んだ人々たちを泣かせない(笑) ような方向で取り組んでいきたい。

などがあれば伺いたい。

Q: 出版した本の部数と定価は?

A: 2500部で、贈呈分が結構ある。1部2500円で2000部くらい売れた。出版の費用は原稿料は無し、版下、印刷代のみで、校正料もサービスしていただいた。

Q: 長期に販売することを考えて、ボランティアでも原稿料などを支払う形で

牛込見附をいかした地域観光まちづくり (先住人にも、新住人にも心に残るふるさとを)

外堀遊縁研究会(元牛込見附復活検討研究会 参加3年、助成額50万円)

4年前に会が発足し、3年間のサポートで卒業を契機に、新しい船出をしてNPO法人登録することになった。メンバーで1人5万円ずつ出資して設立する。

この1年の活動のテーマは見附周辺の保全、国指定史跡の保存、周辺町並みの改良、地域観光商業の創造、郷土史の伝承、の5つをやってきた。

まず石垣は修復、復元可能なことがわかった。

復元図や復元模型をつくり、どのようにやるかを探った。先例や業界筋を調べた結果、石垣専門の職人集団や江戸城天守閣の復元を試みた大工集団を確認した。今度は、それらの人たちと協力協定を結びたいと考えている。

牛込御門内といえば、大名旗本を笑うような講談話が多いが、地域の品格を高める郷土史をまとめたい。屋敷稲荷を題材に、見附稲荷をはじめ、桐生稲荷や皿明神などの歴史を探った。

また、調査依頼を受け、『牛込御門内 桐生稲荷の履歴』を編さん(郷土史伝承

第一話) したことから、群馬県桐生市との交流も生まれた。

今後、寄付金活動も必要になるし、ハウスアキバとの連携や通信網のネットワーク化、国際的なPR(英語やハングル語)でも必要。また、牛込御門は阿波蜂須賀藩の傑作なので、蜂須賀氏子孫や徳島県に伝えたいと思っている。

最後に、「江戸開府400年」に「歴史に残るまちづくり」を目指してサポート記念誌(冊子)を提案したい。

Q: 活動はすばらしいが、住民への広がりが少し心配だ。もっと、全

国的、世界的にPRしてはどうか。

A: 地域へのPRとしては、模型を小学校に交付し、要望があれば、その説明を話し、伝えていきたい。

全国的にPRすることも必要だろうし、世界的には、江戸城がどうして世界遺産に指定されないのか考えていたので、それに繋げていければと思う。ホームページなども開きたいし、見附稲荷や皿明神についても調べたので、いずれまとめた本を出版したい。



飯田橋JR貨物関連用地等の開発に伴う 望ましい開発と地域への影響

飯田橋地域の開発を考える会(参加3年、助成額35万円)

サポート活動の3年間があったという間で、楽しくもあり苦しくもありだった。

まず、我々が提案した通り、人道橋が架かり中央のスペースで川を眺めたりできるようになる。三崎町と飯田町を結ぶ橋で、車椅子でも通れるよう、階段とスロープがついた造りになっている。

川から町を見ようと、船での見学会を催し、神田川、墨田川、日本橋川と渡った。昔の建物は川から見ると背中向けで壁だけであるが、最近の建物は、川に向かって窓やテラスがあり、親水性を取り入れているのが印象に残った。

大正時代に架けられた新三崎橋も架け替えられる。船から見ると橋桁(けた)に彫刻があったり、カラータイルでデザインされているのに気がついた。新しい橋にもそういうものを要望したが、鋼鉄の橋なので無理といわれた。

開発地のエドモンドとシニアワークの間の道路も実現。幅2mで、夜間には照明がつく。飯田橋地区の水と緑と歴史を

活かそうと、まず緑のネットワークとして、500mの桜並木を提案。自治会館の並木道や、九段一丁目の地域の柵を取り払って小公園になることになった。

歴史的遺産では甲武鉄道の発祥の地なので、鉄道のレールを2本設置し、商業地が最終基点となるように、入口にインパクトのある物を提案。また、昔の護岸跡から出た石を道に少し敷き並べた。讀崎高松藩の上屋敷跡にかつては池があり、その石もモニュメントとして使い、池の跡に植栽を施す。

目白通りに面した商店街には、参加型植栽として委託することを提案したが、都の管轄なので、困難ということだ。

飯田橋駅舎の改築については、駅との交渉は難しいが、行政や警察とも話し合い、駅前に横断歩道ができることになっ

た。少しずつ理解され、一歩ずつ前進している。地元住民、行政、開発業者が一体となった再開発の会ができた。

Q:すごい成果を上げたのは、どういう仕組みで進めてこられたのか?

A:基本は話し合って、要望書を出すこと。行政や町会、商店街の人たちとの横のつながりが生まれた成果だと思う。

またサポートの活動として認められたことで、その助成金で講師を招き、いっしょに勉強会ができたことが大きい。

Q:これはお願いだが、この活動の成



功の経過を整理し、形にして残してくれると、今後、他の会にも参考になる。

行政や業者と住民とのパイプ役を今後ぜひ続けていってほしい。

番町・麹町地区における文化人マップ ～時空を超えたりが町への旅～(その2・二番町・四番町・五番町編)の制作

番町まちづくり文学館(参加2年、助成額25万円)

昨年度は文芸地図の六番町編をつくり、次は、二番町・四番町・五番町の3つの町内を探索。実は一昨日、いったん仕上げたのだが、印刷ミスが出て没にした。本日の印刷物は参考のもので、完成品は次回にお持ちしたい。

今回は範囲を広げたので、文化人が居

住したり、ゆかりの場所を特定するのが困難だった。たとえば、武者小路実篤が1年足らず住んだ場所を探し当てるのは次のような具合である。

文学年表などを見ると、何年に何処に住んでいたとかが載っている。まずその記述を探す。ところがすでに番地そのものがなかったりする。本人が志賀直也に書いた手書きの転居通知があり、地図もある。しかし、それが間違いで、泉鏡花、有島生馬、武田麟太郎らの家も書いてあるが、やはり違っている。

現在の五番町と一番町が入れ代わっていたりもするし、特定するのに大変苦労した。



しかし、六番町編が出たことや、9月に読売新聞に載ったので、地図がほしいとか反響があった。少しは役に立ったかと思う。

Q:マップの印刷部数は前回と同じくらいか、また、どこに置くのか?

A:やはり2000部づくり、町内や、学校などに配り、役所関係にも置いた。残部は少々ある。希望があれば多少は配られる。

Q:昨年、マンションの人たちから大量にほしいという申し出があったようだが、新しい人への配付の工夫も重要ではないかと思うが。

A:印刷物は市販するわけではないので、どうしても公共の場所に置かしていただくだけになる。インターネットに載せることも考えなくてはと思っている。

Q:マップをつくれれば、その読み方、見方も必要で、今後はそういう解説のプログラムも大切になるのではないか。

A:三部作を完成させて、本として出版し、その段階で考えてみたい。

花のかけはしで心豊かな ふれあいまちづくり

花咲かじいさん(参加2年、助成額50万円)

この2年間で、150鉢の花を早稲田通りに飾ることができた。みなさんからアドバイスいただき、なんとかここまできた。年4回、四季の花を交換しているが、富士見小学校の土を再生させていただき、花を育てている。

里親さんの協力で水を欠かさず、花殻を摘み、花を維持できたのもうれしい。この活動のおかげで、花の輪が大きく広がり、小学校や幼稚園の子どもたちとの交流、触れ合いの場となった。子ども祭りや千代田区一斉清掃のゴミ拾いなどボランティア活動も続けてこられた。

子どもたちとは、まず育てる心を育てるということで、いっしょに種を植え、花を育てる活動もしてきた。先生たちも同じ思いで、子どもたちにもまちづくりの活動として、地域に何かできることを

と、育てた花を街に飾った。

また、地域の人たちと、樹木の根元に花を植える会が生まれ、大妻通りに100株近い花が「フラワー2000」のグループにより植えられた。

早稲田通りの基点である飯田橋駅隣の交番の所に子どもたちの手作りの花を置こうかと計画している。子どもたちも、国指定の場所(史跡)があることを学び、街に誇りを持つことになると思う。



実は、100円プランターの花鉢が、2年間でだいぶ傷み、買い足すにも物が無い。いっそ、江戸の文様の入った鉢をつくりたいと考えている。

次の目標として、「アダプト(転用、適合)プログラム」といういわば、私たちの活動と行政の養子縁組を行う。この考えはアメリカで生まれ、「市民が公共スペースをアダプトし、これを養子のように愛情をもって面倒をみる。清掃、美化することなど、自治体と市民がお互いの役割分担について協議し、合意を交わして活動する」もの。

まず子どもたちの周りをきれいにし、早稲田通りなどを選び、行政と市民とで花を植え、触れ合いの場をつくり、子どもたちと種植え、苗を育てていくために行政が予算化して、サポート助成が終わっても活動を継続できるようになれば…。まだ案だが、今後の展開が楽しみだ。

Q: 鉢をつくることからやりたいというのは、具体的にはどんなふうに?

A: 子どもたちに文様を描かせて、鉢をつくれなかと考えている。

で売る予定。

予想外に、ビールケースや買い物かごを探すのに時間がかかった。

Q: 以前より衣装ケースが少ないようだが、何か理由があるのか?

A: ある程度数が揃わないと、イメージ的にも定着できないので、集めやすいものが多くなった。また衣装ケースだとバリエーションがあまり効かず、広がりがなかった。

Q: この会は、みんなの居場所を提案するのが目的ではないのか? それとコンテナ畑とがよく結びつかないのだが。

A: それがほんとの目的で、そこがいちばん難しかった。やはり、イメージが先行していて、人を集めることがうまくできなかった。もっと楽しくなるアイデアを出し合って、ワークショップなどをしていきたい。

Q: 「みんな」とは誰か? 大学の屋上に置いたら、集まるのは学生だけでは?

A: 最初は学生の立場で、街の人と関わっていくのは難しいと感じた。しかしできれば、街のなかで関わりを持ちたい。あくまでも対象は千代田区の人たちだ。

Q: うまいかない時も、最初のコンセプトを忘れずに、徐々に広げて、楽しみながら頑張してほしい。

都市におけるコンテナ畑の提案及び ワークショップによる作成

みんなの居場所提案会(初参加、助成額10万円)

活動内容は、簡易なコンテナ栽培を通じて、人が集える快適で楽しい居場所を住民参加の形で提案・実現すること。

ビールケース、買い物かご、衣装ケースなどを利用したコンテナを作成し、屋上など、町中で普段使われていない居場所に設置した。

屋上緑化では、「ほっといても平気で手がかからない」植物や土壌を使えば1㎡当たり2~3万円かかるが、「土にふれ、土をいじり、楽しむ」ことを目的とする

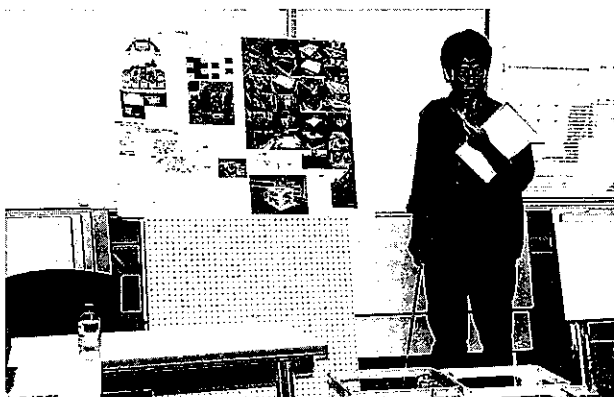
と、ふつうの土でよく、1ケース350円というローコストで実現できた。

ただし、その場合、土の重さを考えて、コンテナ畑の重さを計算し、一般に180kgを超えるとコンクリートの建物の天井は耐荷重が限界であることを考えて対処した。また、台風時などの風圧についても気象庁で調べた。その他、コンテナの土が流れない加工にも工夫した。

このコンテナ畑を設置してくれるビルを、千代田区のボランティアセンターに依頼して探してもらっている。

住民参加のワークショップを開くことが難しく、実現できなかったのが、次回目標としたい。

大学屋上に置いたコンテナ畑で栽培した野菜や観葉植物の苗をフリーマーケットで売り、資金にしたい。コンテナ畑を材料費の値段



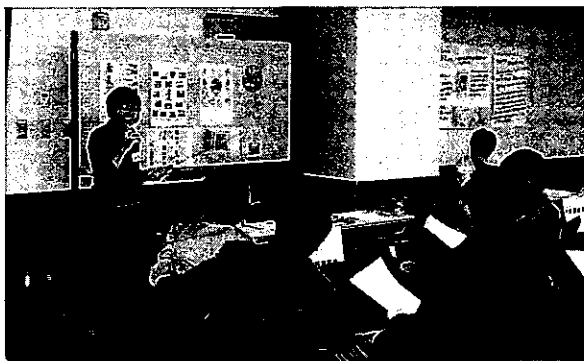
食と街と芸術の融合

街と蕎麦の再発見で芸術の楽しさを街づくりに

神田SOBART実行委員会 (初参加、助成額50万円)

神田蕎麦の会の方々と毎月1回ミーティングを重ね、「神田SOBART」の開催と『神田蕎麦乃地図』の企画制作を進めてきた。ねらいは神田の街に新たな人の流れをつくり、街と蕎麦屋の再発見をしてもらうこと。配付した「神田蕎麦乃地図」は大好評だったが、これだけでは実際に街を巡ってもらえないのではないかと、アートプロジェクトイベントを開催した。

11店舗と店舗外の合計14カ所に、19人の現代アートの工芸作家の作品を展示した。広範囲にわたるエリアを人々に回ってもらうために、アートラリーというスタンプラリーの形をとり1週間行った。結果は19人が7店舗を完走して蕎麦券を得て、9人は11店舗を巡って参加作家のオリジナル作品を獲得された。



手製のうちわの裏に地図を載せ、回った順にスタンプを押していく。参加者は少なくとも4000人以上。このうちわは日本大学理工学部「子どもといっしょにデザインしよう会」の協力で、千代田区の児童館でワークショップをしてつくり、オープニングの時に採用したうちわ作成者の表彰式をして盛り上がった。

アート作家がこのプロジェクトのために制作した作品は、置いてくれたお蕎麦

屋さんからも好評ですと置いてほしいという声があった。街の人やお蕎麦屋さんたちに、アートは楽しいと感じていただくことが目的でもあったので、また開いてほしいという声もあったし、ほぼ成功だったと思う。

多くのボランティアの協力あっての奇蹟的な実現だった。来年も続けたいが、経済的にも少し無理がある。課題をどうやってクリアするか、目下検討中。iモード対応の「神田マップ」は少し遅れて会期中中にスタート。お蕎麦屋さんの情報しか載せられず、残念ながらフル活用とはいかなかった。

Q：企業からの寄付金があるが、活動継続にはそういう道を探るのも重要だ。どんな形でこういうことができたのか？

A：正直なところ、かなりゲリラ的に情報を集めて研究し、出版社などにご紹介いただいて直接会社に、会のプランを説明に上がり、ご協力を仰いだ。

Q：地元の企業の方にご賛同いただき資金の提供を受けてはどうか。地域の町内会や商店街などともタイアップしたり公の芸術関係の助成金なども活用してぜひ来年も続けてほしい。

蕎麦の街神田をめざして、 観光地図『神田蕎麦乃地図』作成

神田蕎麦の会 (初参加、助成額30万円)

「神田SOBART実行委員会」と協力して活動した。我々はまず、蕎麦をつくることによって蕎麦文化を体験してもらおうと、千代田区の教養講座で手打ち蕎麦教室を開催。受講生から「蕎麦の実会」

という自主サークルが生まれ、在住、在勤の区民に蕎麦の知識を深めていただく活動が定着した。

地図に関しては蕎麦屋の地図をつくるだけでなく、蕎麦屋以外の店や名所旧跡

などを入れ、街歩きの時に役立つ観光地図として『神田蕎麦乃地図』を作成。住民から区に問い合わせが多くあり、地域振興課へ届けた。

神田のイメージアップを図るとともに、蕎麦という日本文化を区内の外国人にも知っていた

たく働きかけも行った。

特に、街と芸術と蕎麦の合体を目指したイベント「神田SOBART」を成功させた意味は大きく、祭りの多い神田に新しい祭りが生まれたと自負している。今後、これをいかに継続するかが課題。どう発展させていくか討議している。

Q：来年に向けての何かアイデアや思いがあるのか、聞かせてほしい。

A：イベント「神田SOBART」が好評だったので定着させていきたい。お互い商売をしながらの取り組みなので、時間的にも調整が大変だった。そこをどうクリアしていくかが課題だと思う。

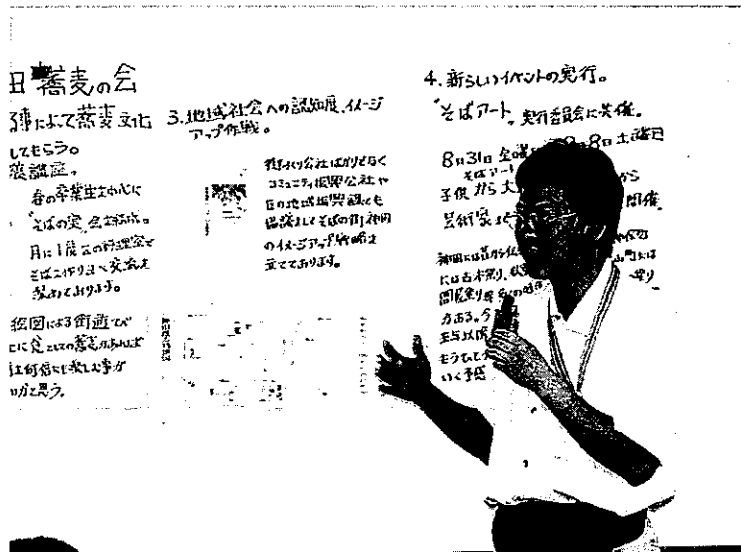
Q：地図はどのくらい印刷したのか？

A：2万部つくり、12店舗に各1300部配付し、残りは公社窓口やイベント当日の会場に無料で置いた。

Q：多少でも有料にして、会の資金源に回収することも考慮してはどうか。

Q：伝統的な蕎麦屋と現代アートとの組み合わせで反発やトラブルは？

A：なぜ現代アートなのかという問いかけや、店に飾るのは困るという声もあったし、業界の反発もあった。今後の課題として勉強していきたい。





みなさんが目標をもって、発表して、審査会委員につつかねながら、互いに火花を散らして活動をしてきた。そこに、新しい形の、ことばにすると簡単ですが、住民主体のまちづくり運動が生まれた。それがいちばんの魅力だと、私はまたきょうも感じました。

私は、世田谷区のまちづくりにも関わってきました。今年度からは鎌倉市のサポート事業のお手伝いをしています。この千代田区の事業と、3つの活動を比較しながら見ています。

世田谷は10年前からで、いろんな意味で先駆的でした（地域が住宅地であるがゆえの性格が、良し悪しは別としてあります）。千代田区との大きな違いは、世田谷は事業資金に税金が使われています。事務局には区役所の人にも関わっている。資金をファンド、銀行に預け、利息で運営する。この時代に大変に厳しい運営で毎年、行政が補てんしている。

これに対し千代田は、その反省から、ファンドとして銀行に預けるのではなく、企業などからの資金を直接、助成金として交付します。利息ではない、新しい資金システムです。ただ事務局は公社や、区の方に頑張ってもらっています。

鎌倉は、その千代田区と世田谷区両方を踏まえて、今年度から始めました。税金は使いません。企業もあまりないから支援できない。でも市民活動が盛んなので、そこからのお金が15万円。それをサポートセンターに預け、5万円ずつ3グループに支援として分配した。

その事務局はNPOセンターで、公開審査会をやりました。まだ不慣れですが新鮮なものを感じました。

千代田区の発表会のレベルの高さは、やはりこの地区が400年の歴史を持っていることからきていると思います。

大きな成果でいえば、「江都天下祭研究会 神田倶楽部」が立派な本を出した。調査して成果をまとめて区民に訴える、と

いう市民活動のひとつのルールを敷いてくれたこと。資金の面では問題があり改善しなければならないけれど。

「飯田橋地域の開発を考える会」は、開発に対して市民が何をどうすればいいのか。開発を市民のために活かす方法はないか、そのプロセスを出版に限らず形にして、後輩に提案できるかと思う。

「外堀遊縁研究会」は、緻密な調査と資料集めを、3年間地道にやって、毎回初めて聞くような情報を提示してくれた。これからNPO法人を立ち上げて、新たな資料をもとに市民や世界へ向けて活動していくことができるか否かは、まだわからない。我々もいかに支援していくか、全員で考える大きな問題です。

2年で卒業した「都市住宅とまちづくり研究会」のグループは、先陣を切ってNPO法人を立ち上げました。この3年の間に2つのNPOが生まれたことは、大変なことだ。

最終発表会は、このサポートのグループが実行年度に関わらず、互いに支え合い、交流する場にもなると思います。1年に1回、一堂に会して話しあうことが必要ではないか。ホームページをつくることも大事だが、直接情報交換することも大切です。

「QQT」は昨年留年という苦い選択をしたが、きょうの発表を聞いてよかったと思った。つぎの活動をどのような内容に組み立てればいいのか、きょうの話を活かして、やはり、みんなで考えなくてはいけないと思います。

「みんなの居場所提案会」については、他の活動のレベルが上がってきたので、素朴なこのグループが、逆に新鮮に思えました。ですから、くじけずに他のグループを参考にして、頑張ってやって下さい。

常に新しい人たち、何か思いのある若い人たちも、どんどん来て下さい。みんなでネットワークをつくり、自分たちの経験を披露して育てていきましょう。そういう姿勢がなくなってしまうたら、まちづくり活動はだめだと思います。

街づくり救急隊の構想と実践

QQT

まちづくりの救急隊として活動している。前年からの留年ということで11人のメンバーでやってきた。月1回、ハウスパバに定時に集まり情報や課題を検討。主なテーマは次の3つである。

1) 淡路町交差点

舗装された道路や舗装に段差ができ、老人などがつまづきやすい。また、ガードレールは必要だろうか。

2) 通りに沿った歩道の植栽の立ち枯れ。

なぜか、やはり街に対する愛情のあるなしによるのではないか。

3) 歴史的建造物に5軒が都より指定。

ところが、ここにワンルームマンションが建つ（全29戸/30戸からは管理人が必要となる）。各種の規制条例などは意外に役に立たない。歴史的な街を防衛するものはほとんどないといってよい。

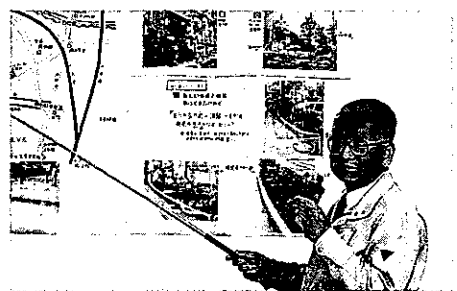
我々はこれに反対して、担当部署に訴えたが、まだまだ問題は山積みである。

Q：きょうの発表から具体性は不明だが、議論されたポイントは判った。その結果をインターネットにのせるとか、内容をどこかに発表したのか？きちんと多くの人に伝えることが大切だと思う。共

感の輪を広げていくことが大切な役目ではないか。

Q：住人ならではの発見、指摘があると思うが、実際にそれを解決する行動をもっと起こしてほしい。他のグループとの連携も探るべきだと思う。

A：その可能性はあるが、それには我々の怒りなど、ゲキカラの部分はどうマイルドにしてどう提案するかが課題だと思う。





みなさんは3年間でサポートの活動を卒業しますが、審査会委員は、定点観測的に見ているわけで、気楽ですが、みなさんと共には成長しない。みなさんの方は3年でずいぶん変わったと思う。蓄積が突ったと実感できました。

「QQT」のみなさんには、1年よけいに活動していただいたが、それだけ視点がはっきりしたと思う。それをぜひ他の方に伝える活動を目指して下さい。

「みんなの居場所提案会」はまだ1年目ですから、試行錯誤の実験段階だったようで、そういうのがあってもいいと思う。特に学生さんの若いグループですから、思い切ったことを提案して、来年またやっていただきたい。

「神田SOBART実行委員会」と「神田蕎麦の会」は、非常によいプロジェクトでした。2つのグループがこれだけいっしょにやったのはたぶん初めてです。他にも、いっしょに組めるグループがあれば、共に活動するといいいでしょう。

「花咲かじいさん」と「番町まちづくり文学館」は、確実に活動が広がってきた。これだけ広い市民レベルでの関わりと、ついに行政をも動かして、活動の仕組みをつくってしまっただことはすごいです。

それから3年目の3つのグループはそれぞれユニークな活動で実績をあげた。外への発信の仕方、ネットワークのつくり方などに工夫もしていた。

くどいようだが「飯田橋地域の開発を考える会」は、開発を巡る市民活動の新しいタイプだと思う。ぜひ活動を続けながら、会の役割を整理し、活字にしてほしい。

「江都天下祭研究会 神田倶楽部」と「外堀遊縁研究会」は、この蓄積を元に、さらに実現に向けてそれぞれに発展していったほしいと思います。

平岩千代子 (電通総研副主任研究員・NPO理事)



サポート事業の1年目の発表を聞いた時には、3年後にこれほどの成果が出るとは夢にも思わなかった。「すごい」、というのが私の率直な感想です。1年1年着実に積み重ねていくことが大事だと改めて感じました。

一方で、これだけ完成度の高い活動が出てきた時に、新しい人たちをどう取り込んで導いていくかが大きな課題で、活動が高度になるにつれて、みんなの見る目も肥えてくる。そこで初心に戻って、小さな芽をどう拾い上げていくか。また、いかに門戸を開いていくのかを、みんなで知恵を絞っていかなくてはならないと思いました。

もう1点、卒業したグループは、これからどのように街に活動を根づかせていけばいいか。このまちづくりサポートを支えてきたメンバー全体の共有財産として、定着させていく道を探りましょう。

私自身まだすぐに答えは出せないけれど、みんながこの地域に必要なと思うような活動をいかに育てていくか。それが新たな課題だと思います。



ほんとにみんなすばらしい。特に「飯田橋地域の開発を考える会」はオオバケしたなと思った(笑)。1年目は、名前が固いし、もしかしたら反対運動オンリーでは、という印象もあったが、すごいことをなされた。

アイデア勝負の派手な活動ではなく、とても普遍性のあるものでした。先ほど要望が出たように、他の会の参考になるよう、活動の経緯を活字にするとかまとめてほしい。

「花咲かじいさん」もすごい展開で、ぜひ外国の状況や活動なども見学して、勉強してもらいたい。やはり、市民の交流や活動に関して、このグループにもっと学んで実行してもらおうと千代田区はすごいことになると思う。予算化されてお金が出れば、さらにできることがありそうで楽しみです。

来年からのことをいえば、「神田SOBART実行委員会」にはぜひ続けてもらいたい。ひとつの問題は資金ですが、動機は地域のため、ピュアな初心を忘れずにやっても、若い時で仕事も忙しく、お金も時間もない時にどうやったらやっていけるか悩みますよね。また、まちの方はやはりボランティアの人を無報酬で使いたがるけれど、スポンサーシップの気分を味わいながらお金を出してくださればいいと思います。

千代田区には現在、再開発の巨大な空間があり、自主団体にはまだまだやるべきことはあると思うので今後もがんばってほしいです。

渡辺 滋 (区都市整備部長)



私は仕事を離れて個人的にもきょうは感動しました。

基本的な考え方として、こうした活動は、行政をあてにしてはいけないと思う。私も実はNPOに入っています。

行政が支援することには安心もある反面、大変な危うさもあると思います。ただ、仕組みなどを変えていく時には行政も公社も、まちづくりに対してもっと積極的に考えるべきだと思う。

活動の資金面については、私の考えは、基本的にはボランティアであろうかと思う。しかし、森委員のご指摘もあったように、継続するためには無償にはしないこと。そのためには資金も場所も必要です。

一時期、ボランティアは無償だと言われ強調されて、それに反対の意見が出された。NPOもボランティアも稼いでもよい。しかし、この考え方が出すぎると、いちばん大切な面白さが失われることがあります。一方で、行政や公社は甘えすぎないことです。

また、あまりのレベルの高さに他の人がビビってしまうのではと心配です。もっといろいろな人たちが集まり、関わっていけるようにしたい。やってみただけ失敗したというグループがいてもよいわけで、成果は少なくともそのプロセスでコミュニティやネットワークができれば、それを成功といっていると思う。

ホームページやメールなどを備えていくことも公社の役割の一つでしょう。

リナックスカフェオープン

秋葉原から世界へ情報発信する拠点ができました。

下島ビルに、公募で選出された「リナックスカフェ」がベンチャー育成センターとして2001年12月5日にオープンしました。

リナックスストーリー

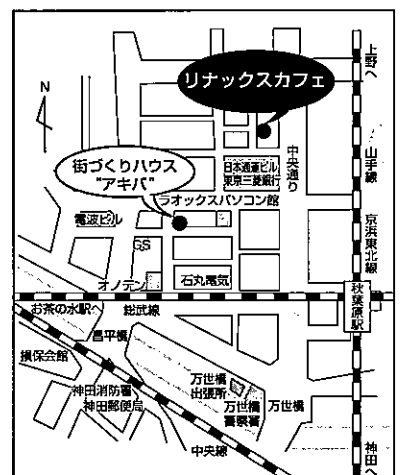
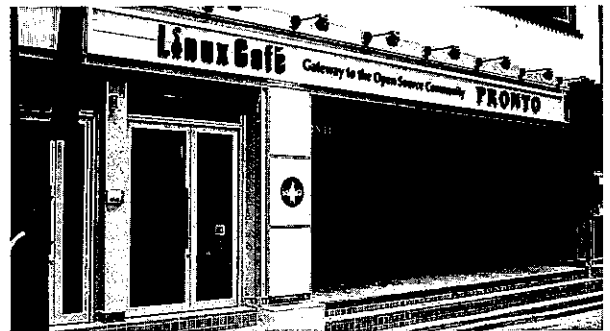
リナックスカフェは、有志ベンチャー企業が発起人となり、千代田区・大学・秋葉原地域商工団体など、産・官・学・民が協力して実現したジョイントプロジェクトです。

リナックスカフェは、新しいまちづくりの拠点であり、産業の活性化モデルの提案であり、異業種、異文化コラボレーションのためのプラットフォームです。

リナックスカフェは、オープンソースのカルチャーの中から生まれた、誰でも気軽に立ち寄れる出会いの場であり、学びと遊びの空間であり、新しいライフスタイル提案と開発のための情報発信基地です。

リナックスカフェからいくつもの、創発的で面白さの横溢する新しい物語がたちあがってくる。これが私たちの最大の喜びです。
(リナックスカフェ設立委員)

問い合わせ先●株式会社リナックスカフェ 〒101-0021 千代田区外神田3-13-2 リナックスビル
TEL 03-5209-4770 FAX 03-5209-4771 <http://www.linux-cafe.jp/>



5階	Developers Café リナックスビルのネットワーク管理フロア
4階	Incubation Café ベンチャー企業のインキュベーションフロア
3階	College Café ネットワーク家電の開発・ネットワーク技術の教育を行うフロア
2階	Penguin Village コミュニティスペース。自由な情報交換のフロア
1階	Linux Café de Pronto インターネットの仲間が集う憩いのフロア
地下1階	3階の研究に必要な図書館・成果を展示するスペース (計画中)

(財)千代田区街づくり推進公社賛助会員一覧 (法人100社・個人65名 計165) 2001年10月1日現在

*この事業は下記の法人会員と個人会員の会費で運営されています (個人会員は省略させていただきます)

〈保険関係〉

あいおい損害保険㈱
太陽生命保険相互会社
日本興亜損害保険㈱

〈金融関係〉

㈱あさひ銀行
興産信用金庫
㈱三和銀行
芝信用金庫
太陽信用金庫神田支店
㈱大和銀行
㈱東京都市銀行神田支店
㈱東京三菱銀行
農林中央金庫
㈱東日本銀行
安田信託銀行㈱
㈱わかしお銀行本店営業部

〈建築・土木関係〉

エルゴテック㈱
大木建設㈱
㈱大林組東京本社
大林道路㈱東京支店
鹿島建設㈱東京支店
鹿島道路㈱
㈱久保工
㈱熊谷組東京支店
古久根建設㈱
佐藤工業㈱

三機工業㈱

清水建設㈱東京支店地域営業部
㈱銭高組東京本社
大末建設㈱
大成建設㈱
ダイダム㈱東京本社
高砂熟学工業㈱東京本店
㈱竹中工務店
中央建設㈱
鉄建建設㈱
東京舗装工業㈱関東第一支店
東洋建設㈱建築事業本部
常盤工業㈱
戸田建設㈱東京支店
飛鳥建設㈱東京土木支店
飛鳥道路㈱東京支店
㈱ナカノコーポレーション
長野建設㈱東京本社
西松建設㈱
日東大都工業㈱
㈱間組東京支店
前田建設工業㈱
真柄建設㈱東京支店
㈱増岡組東京支店
三井建設㈱

〈不動産関係〉

㈱お茶の水スクエア
協永不動産㈱
㈱共立エステート

住友不動産㈱

㈱大京
大日本企業㈱
三井不動産㈱
三菱地所㈱
森トラスト㈱
安田不動産㈱

〈建設設計〉

㈱アーバン・ウイング
㈱アーバン・ラフィックエンジニアリング㈱イサミヤ
㈱アール・アイ・イー
㈱アイテック計画
㈱アルセッド建築研究所
㈱ADプロジェクト
エヌティティ都市開発㈱
㈱エルイー創造研究所
㈱環境開発研究所
協同組合 都市設計連合
㈱楠山設計
五洋建設㈱
太平工業㈱東京支店
㈱都市映像研究室
㈱都市環境計画研究所
日本橋興業㈱
パシフィックコンサルタンツ㈱
㈱日立建設設計
㈱ポリテック・エイディディ
本州ビル・メインテナンス㈱
㈱松田平田設計

マト設計・コンサル㈱

八重洲コンサルタント㈱
㈱山下設計
㈱ラウム計画設計研究所

〈ビル管理〉

鹿島建物総合管理㈱
東京美化㈱

〈広告代理業〉

東宝㈱

〈販売・興業関係〉

東宝㈱

〈電機・通信関係〉

三洋電機㈱

〈その他〉

秋葉原商店街振興組合
秋葉原中央通商店街振興組合
秋葉原西口商店街振興組合
㈱エコプラン
神保町一丁目南部地区市街地再開発組合
東京高速道路㈱
(社)東京都建築士事務所協会
㈱東京読売サービス
㈱明正社
ヨシモトポール㈱